

「男らしい」男はモテないのか —時代の変化と多様化を巡って—

19191010 杉本一太

「男らしい男性は女性にモテる」と言うが、そもそも「男らしさ」とは一体なにか。本稿では、人々がイメージする「男らしさ」はどのようなものであるか、ジェンダー平等が進む現代社会において「男らしさ」の変化をみていく。また、それを踏まえ「ファッション・化粧・体格」の3つの観点から、現代の男性性の在り方を考察していく。

ここでは、マンボックスという男性をイメージする上で、連想される「強い」「勇気がある」「リーダーシップがある」などといった伝統的且つ覇権的な考えや行動を提示した。このマンボックスに当てはまるものに外見的側面である「筋肉」を追加したことで「男らしさ」は、伝統的なマチズモに当てはまるものであり、女性の逆である存在という風に定義した。

しかし、現代の若い男性性をファッション、体格、美容という3つの観点からみたことで、伝統的なマチズモに当てはまる「男らしさ」は古き考えとされている傾向が見られた。女性の逆の存在であるはずの「男らしさ」は、いつしか女性との境が見えないものへと変化していた。これらを基に、「若い世代が考える『男らしさ』とはなにか」アンケート調査を行った。

アンケート調査は2種類実施した。性役割観の構造を解明するにあたって作成した M-H-F scale (性役割観測定尺度) を用いて若い世代を中心に考える男らしさの傾向の調査と、ファッション・美容・体格の3つから、若い世代の男性たちの意識や習慣の変化、女性が男性に向ける目線などを明らかにする調査を行った。

上記2つのアンケート調査の結果から、若い世代が考える「男らしさ」は、従来の男らしさが基板になっている傾向が見られた。つまり、伝統的なマチズモにあてはまるものが「男らしい」とされている。しかし、コロナ禍をきっかけに外見的側面からみる男性性の在り方は「美意識」を基に大きく変わり始めていたことが本稿で明らかになった。

男女差が問題視され、ジェンダー平等が進む現代社会では、「男らしさ」はいつか消えてしまう可能性が見えた。